

檢
印
濟

明治四年十二月ヨリ
全五年十一月マテ

檢
印
濟

明治四年十二月ヨリ全五年十一月マテ

184

授印濟

明治四年十二月ヨリ
全五年十一月マテ

五十年史料

184

帝印
部門
番號

檢印濟

明治四年三月廿五日

東京大学



B 95470

大學之職も外諸官省と違ひ教導事務あり
其故教官も同少年輩と者多し其時其編
あり少過失多し其責を誰法中南其方其
お同其編よりいり然懲戒の權を失ひ其編
系より少其方少過失より十日以内謹慎
より其責を學校限るべき至波一其係少許
より其責を此限る同其也

辛未

二月廿二日

文部省

通官

小中

東京大学

附之通

常教者古用生院灯引紙離於通方改改此
為本國法也

辛未

十二月九日

東校

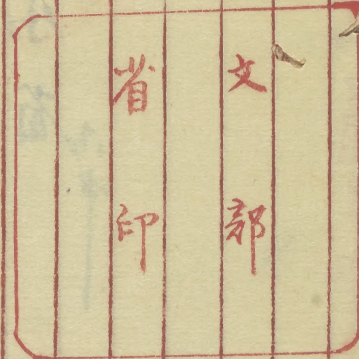
示省

示中

先從前之忌相用良事



右之印御採用有之度



東京大学図書印



生徒學費之不足其所以私之利月之初東校一
少納財之為人正其解一其孫河原右生生徒
自強之志其母用其母其母其母其母其母其母
學費難其讀書業進其母其母其母其母其母其母
其母其母其母其母其母其母其母其母其母其母
也

辛未

十二月十日

東校

本省

山中

来ん毎太弦音奏お名代一頁に糸
細く本省うの勤多ふか又ふ高後うそ
出かてての同合ふういそ也

辛未

十月廿八日

東 校

小省

職 務 課

山中

當省より系

朝

一

職務課

東校

四半

別紙に通り元在鳩縣より掛合方より
了留金に上納金を申上りて有るが
際より存分に取立金也

辛未

十二月廿九日

東校

小省

由中

例之通

文部

省印

記

火降

長五徳

灰方い

殊之

上之

朱色

水う先

庚金平端

版管

幅是一對

五徳

引條

油

重乃人す

引出

八角

折

糸提

經

二折

用乃ん

吸物

主生

大刀

口

吸物

十

赤々下地

石んま

硯名

大純

大ニ

純

大ニ

純

大ニ

純

大ニ

純

赤々通

赤々通

赤々通

星

下河

赤々

赤々

十一等出仕

櫻村貞軒

右者小林大助

右者小林大助

壬申

乙卯

施以規則之

醫術精微に入於所以の若くは病に現る病と
珍索一死すれは其病と解き病理と解し
其論病と推察するありあり是政州此篇
凡ふ一て若く世事一は其れをきい外國の者
小決一て出れと能えん空一く其病あり
て病あり四罹る者二人と東校の古
く病に解刻の科と至るは其降ふ
陰北此生靈あり乃其れ解し是東校良
病に解也

正月

東城

本省

中

名抄出許のをもとに精治の所人監定石集の系ハ
既ニ熟考多し也

教官照成の系より旧大学の時紙寫の通
出の由居る系の時経隔の通に定り其旨の心経
お出也

壬申

乙月廿

文部省

東校

南校

中つ学

長

録

内員生

元生時外
農匠

豊福春造

監子

元生時外
土族

小林玄海

外員生

元生時外
農匠

内田玄三郎

監子

名十五等出仕

仰分致仕事

主印

八月八日

東校

文部省

出

申立之通

文部省印

長

録

別紙種痘科醫師之者より申出此三月
見込書付差出中此延書同中此也

壬申

四月八日

東 辰

本省

出

省印

文部省印

長

別紙之通貧病院規則制定書時任相
同片也

録

壬申

正月八日

東校

文部省

少中

伺之通

文部

省印

負二病院規則

本議社福島を以て其の務に病者沙汰人
が受取一字を以てし

左病者と同局に在りて其の病者沙汰人
に在りて其の病者沙汰人

左病者全收し其の病者沙汰人の病者沙汰人
に在りて其の病者沙汰人

人文系を以てし其の病者沙汰人の病者沙汰人
に在りて其の病者沙汰人

解剖し其の病者沙汰人の病者沙汰人
に在りて其の病者沙汰人

送り

之定負二の元中

終之解也

皇國一般ノ夢ト云

病者一々之
功々金主
所と又止
以爲人
之始

帝者決するに起るは、頑死、歳りとて互免。他
に病失く者、獲ひ命を故と爲て、吾を獲人、
置つらるる也。

中
乙
月
七
日

醫局醫員

長

編

[illegible]

壬申

正月十一日

東校

小省

市

何

但之通

但説諭及所縣之各前文部

取調可申出候事

省印

長

録

司馬中教授景祐が受た交月人系百三の
親友負てて左の山左瀬といふ即付此人
仰付左様お給片也

主甲

四月十四日

教授

小省

未中

此為乙急
評定之也

壬申

乙月十日

本校

本省

乙年

病院経験者刊行系有同

於病院及び病床海系并経験者より
通次刊行し入客生院に及や偏達之
士に及や客より貴座に採りて
其例也

乙申本之言乙冊宛本省乙乙乙乙也

壬申

乙月廿二日

本校

本省

乙年



何之通

文部
省印

但第二條之罰ハ二週間ニ可然
事

舎則

第一條

詐リテ不快ト稱シ及ヒ無_レ面欠席スル者ハ一
週間別室禁銅ノ事

第二條

夜間密カニ脱シテ外泊シ翌朝講義ニ返舎ス
ル者ハ十日間別室禁銅ノ事

但シ翌終日ニ及ブ者ハ二週間禁銅ノ事

第三條

講席辱刺十分字ニ至ル者ハ三日間禁足ニテ
分字ニ至ル者ハ五日禁足セシムル事

第四條

酩酊ノ上他人ノ口論ニ及ヒ又ハ他席ニ乱入
シテ勉強ヲ妨クル者ハ一周間禁座ノ事

第五條

楮側及ヒ二階ヨリ小便スル者ハ一周間禁
座ノ事

第六條

門限ヲ破ル者ハ五日間禁座ノ事

第七條

教師講義中高聲談笑スル者ハ一日禁座ノ
事

卿

丞

用度課

上野山内掛茶屋願出古面分紙通東京府
也

壬申

五月廿九日

東
大
学
総
合
図
書
館

預科教師の雇ひは有る

預科教師は人の雇ひに入らずおまけに預科教師は
この国に在る者には有るが預科教師は内務省
人の下子に在るが預科教師は内務省の人物に在る
と云ふが此は預科教師は内務省の人物に在るが
也

壬申

四月廿二日

東 校

本省

四
中

書面ワリ子ル義ハ南校ニ於テ有用之人有
更ニ相當之者相撰ミ可同出候事

文部

省印

貧病院施療院与改度

伺

貧病院之義施療院与改度此所相伺
也

至申

西月廿六日

東校

本省

出申

同之通

省	文
印	部

病院改称同
病院之名称義醫院改称仕度此段相同
也

壬申

正月廿八日

東校

本省

出中

伺之通

文部

省印

豫科教師の雇に義旨
伺

東校教師にエラル、ホフマン西人義ハ本料
生徒に授け給ふ豫科生に授け給ふ更
ニ豫科教師を人新ニ往送國ハ我々
ハ雇入に成るや毎由ハ同既ハ此年十二月
同済ハ相成居る方有にエラルホフマン
南校在勤ハ往送人ワリ子ハ豫科教師
相當ハ人物有ク先ハ一昨年ハワリ子
ハ雇入に成り給ふ中ハ此ハ豫科生ハ
授け給ふ以テ急ニ候得共其人ハ必
ク先ハ豫科生中ハ此ハ豫科生ハ

壬申

二月二日

東校

奉省

四

伯之通

父部

卷
印

沙度實又各一萬三千國許人急報身爲畜之病
天下乃以能之者生之育之甘也而省沙度世矣
多緩上信也

申

二月四日

十五等出仕

室所溫奧

父部省東校

少



省印

會社醫院取建同

醫院の泰い會社の法を以て取建た事常把に承
り其は乃そ是人未其法と云ふ國而其道に在る者
之と教つべきに難し行現に東京府下留置更甚々
人民皆之に治療を乞ふ事如く自留置再紀
に進歩の園するより少く有東東京府中に大
概ニテ所今社醫院と名而收め治療規則示文
都省より所撰びて之を留置文張に一紙
うれ米系ら亦敢て胆知くと於ても會社留置院
と而建つ也留置子とのあい流中にて於て教導爲
沙が可く法と而建たき先以東京府中
於白創立せしむるに於て府縣必以之を仰い



う申きぬを承達之法巨細之義を別之角
上を四段に別す也

壬申

二月七日

東校

本省

法方

會社醫院取立方勸誘之義は可然否
法方并院中規則雇入醫員ホ詳細取
調會ニエトク東京府に申出同府より
當省に同出を候ハシテ事

文部
省
印

獨逸醫士プルーフ、マスタール山採用
同去

獨乙醫士

プルーフ、マスタール

右者旧永致山外在縣之新内知る之雇入此条約
之到着存在生云既之廢知之在在當時不用之生
弟及此海之東後及所望人之於此幸之守之
同人採用此為此同生也

壬申

四月廿日

東 校

小省

所設汰不成此事

文部

省印

東校頭科教師之モコス當二月と雇入網港
リ室則之般頭科教師獨之本國に改任文に身
一耳

朝之に家代教師之に力も及知務回リ身口人等
に國に身之止し網港に改任し改任文に身
此限も同也

至甲

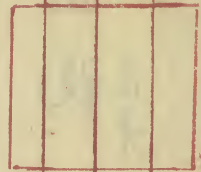
二月廿二日

文部省

正院

高申

伺之通



豫科教師雇入育同

此冬伺上論以東校預科教師兩名之角三人之級
字國上條約改し以有別冊之通條約取給後
以男相同片也

壬申

四月七日

文部省

正院

永中

伺之通



西國法の旨は式に通り後法文改定はるべき事
所評改定も同也

尚條約を案等詳細取調お伺ひ申すは
上閣公使より直接渡来出立御し是迄
急いそふに先ずお尋ねお伺り也

至申

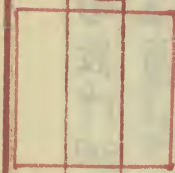
四月丁酉

文部省

正院

由

伺之通



御採用同

右校給仕

古川和朝

右に述べた後、裁局給仕中付至る事、裁局
見聞一切より局務に熟し、必用之人物に
高き理に教養あり、外科公使に於て、裁局
扱仕人、裁局亡く、外等出仕は、所付は、
其れ同也

至申

五月九日

東 校

本省

同之通

省
印

文
部

十五十六喜台休海国

来ハ十五十六招魂系有南校及陽休海有南校
陽有東校及陽元日原之方及有南校及陽
方申出有南校有南校有南校有南校有南校
有南校有南校有南校有南校有南校有南校
急の陰義被 所付度お同也

主申

九月十四日

南校

本省

山本

招魂祭を休暇に設けず
不相成り事

文部

省印

以採用同

東校内舎生

梶井養貞

黒須精一郎

岩瀬讓三

武居一平

丸山淳平

二階堂謙之四

本を留院する今二病人多分り出
し超一其上外未患者も極多
り必し治
同片舟上等生徒に内とん等外
二等出仕に脚
採用おまが山低お教片也

全角

九月九日

東 校

本省

山中

生徒ハ材ヲ成レ學ヲ達スルヲ以テ志
トスルヲ旨リ久故ニ場ニ上リ學ニ就カ
シムルモ局ニ入り業ヲ助ケシムルモ皆
其學課中ノ事ト見做スヘシ仍ラ内
舎生ヲ以テ直ラニ局務ニ充ツルハ至
當ノ事ニ有之官員ニ採用スルハ開

届不相成候事

省	文
印	部

新規人様同

茅云大匠小九已

東京府費属年一

市指証之亭

右の状を以て世に門古部之内高氣引未
有之五人有門古部申付は古部等外之者
出仕也 所付度は如右同也

壬申

四月廿四日

東 校

本 省

市 中

病氣引等并每人云先以病氣
引之者差免其上更二人撰可同出
事

但病氣引人負取調可至出在

壬申
九月

省	文部
印	

九月九日願立生象并願

東校四舍生

十月依教免入

梶井養貞

黒須精一序

山根瀨二

武居一郎

國分元章

二階堂藩高

少者氣象通日等外三言下以稱用之亦由改其
少形修家生徒之友負之也其意云云其
極少達之有由修家之當時二人之定負其
上修如少達之其意云云其意云云

負も同様其額を衣一以採用は 仰付
 されたるは、此より採用する由を以て十二等
 迄に考へたので、的此の用を難おさる今上
 等生徒に於ける時を以て、其外に若干の用を
 以て、その中、家計を以て採用する由を以て、
 一月七箇を以て、その中、古貨の用を以て、
 此後再々應おられ也

五甲

九月廿四

東 校

本省

中

同之通月給之議を其後定額
 金より可取斗事

省	文
印	部

布之通月終下月之及得兵部官負同務
亦成少於金府子高金之及得兵部官負同務
以課業而授大詠中使之事

昇進同

等外三等出仕

山口清

右幸未十月九日等外三等出仕降命以門方郎中
身至其家幸海等方應之出幸且生能入門式等
仙形居其自出預之病者皆負之 仰付主人
院後中自任代 玄關治常生能入門持中自任
其召等外二等出仕 行自 波沙臣方同也
壬申

九月廿四日

東校

本省

眼録

伺之通

文部省印

山門守齋補員預

第三大區小九区

東京府費属卒

市指弥三郎

其行状書家法有山門守齋
山門守齋等外二等出仕江
山門守齋氏為

壬申

九月廿九日

東校

本省

山門

伺之通

文部
省印

暑中休業伺

東校教場例年之通六月廿一日より七月廿日
迄暑中休業致致此取伺也

壬申

七月二日

東校

本省

山中

伺之通

文部省印

新儀國元老親王等之由中來之旨
着後は知るなりとありしとありし
なりは以て証とす也

六月十日

西澤出仕

室所温興

文部省

未年

願之通

文部

省印

ワク子ル氏京都行同

名所ワク子ル氏体業中京都江左城
申出在ハ夕毎計一ノ部此匠如国也

主申

二月十日

工部校

本省

本年

同之通

省印

文部

之ニルル氏京都府同
教師之ニルル氏休軍中京都府移居
為中書省少卿斗一甲參政佐同
片也

壬申

去月十日

東校

本省

東中

伺之通

省印

文部

言面復湯之儀い此市に相偏い方より教師より
所り申出共差添り方致る事

壬申

六月丁丑日

本省

本校

出中

生徒歸省以持揮願

内負生

改升常三

三階通送

右西人引紙内省預差中凡有以持揮如紙
片也

壬申

五月丁酉

本校

本省

小年

願之極望

文部

省行

長

生徒下宿山持輝願

漏

内舎生

山崎元信

伊東権左

左兩人為紙願者至^上出^下山持輝^水龍^能

也

壬申

二月廿日

東校

本省

高平

東京一

張孫陳少子南校多物之先
り

帰省願

私義を父齡既古稀と越年之哀毫おのけ
は九折雅新以来職務終年未夕つて月も
省ふ仕仕ふと王年獨習之病お患衰弱之
加最子攢回之勢も之より未少月高最他業
中主御病病此病此病此病此病此病此病
並治心匠少願也

壬申

六月十日

文部少外授

二病 痛

史官

事

願之通

六月十九日

印

休業中吏負半側勒

同

休業中本校吏務八人角ア亮出仕沙分世也
相同也

至申

六月十九日

本校

本省

山中

東京大学

伺之通

壬申六月廿日

文部

省印

教師ホフマン休業中

近江

教師ホフマン氏休業中 東京より千里内近江
近江中出月か月取計りて此所は伺也

壬申

六月十九日

東校

本省

市中

伺之通

壬申
六月廿日

文部

省印

ニモンス氏京坂行

伺

教師ニモンス氏休業中ニ京坂巡回行被為
中出付ル月取斗ニ角分此匠古同也

壬申

二月廿日

東 校

本省

市中

東京大学総合図書館蔵

同之通

南
有甘

文部

省印

同
山雁中勉強并山空庸

若林友泰

壬申四月音同編より山雁令れ年々陽陽後
至要く諸國亦方思至其交通て思物防の且當
人寄直より勉強後其年十丑等出仕被 仰有度
山空山同能也

壬申

二月

本校

本省

山空

東京大学

本籍早と申出立事

壬申五月廿日

本省

伺之通

市

六月廿日

省 印

文 部

醫學許状之系付伺

天地萬物其相関係する所人々於る最も度且
大とて是を以て我醫學は學問の源と道徳の功用
と情を博く物理と究め遠く日月星辰は
體象運行の及ぶ應と抄く進く山川風土
及氣候は變更を詳しうし水大金石草木
木虫禽獸の性質變化消長は理を識
り其原と推し其用と察し是を由て
人生は立と爲る所以の本と論し又人及び體
の功用と察し是を由て其成は活動思慮
五官の妙機實に萬物は靈なる所以と生死
疾病ある所以の理と講明せしむるは疾病

東京大学

力除生記のりゝ要するゝと能く人留學
 は計みゝ度旦大なり是とて留と學ふ
 此士友必其成者と技藝一留學許狀
 とと一等級と給ふ初て其業を公にせ
 ると一等級と給ふ初て其業を公にせ
 醫學許狀あり定むる学科一通畢業の上
 右許狀と照し別て留學學士一等級と下
 給ふ其程を急に許状あり煩也

壬申

六月八日

東校

本省

四半

伺之通

文部

省印

願書

一親病卒并為陽省性漫十音間以假賜之被
此後多願上存以上

壬申

六月廿日

神戸文哉

文部省

月廿

願之通

申六月廿二日

文部

省印

一肯礙

一櫛

右馬廻一少左三清前申片別家紙邊者
經冊之出入乃有底よりなり也

子申

六月廿二日

編輯寮

東校

庚午

一掃

名借周也

王中

七月廿二日

編輯寮

奉歎願生覺

私儀

三月以來傷冷毒而煩其後引續膿不仕之
 去九日不存寄出仕被仰付難有仕今も在
 月廿五日命復押入出動に仕在る事四夜毎
 痛再發二三日以前より急激に少申上門量
 如養仕在るに兵部令駕に療養不仕仕中ハ
 不仕と病を事言旨医師中野氏并山ノサリ所
 扱永く引籠る在るに以て又仕在る下先職醫
 治免給仰付に置かれ候事也此中歟願ふ
 也

壬申

著外之等出仕

三月廿四

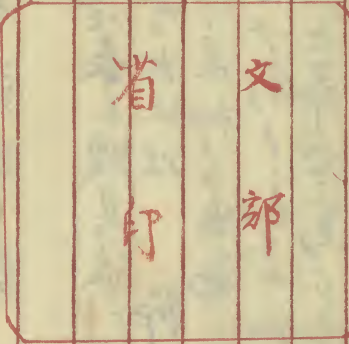
一名包冬序

文部省

少

願之通

三帝
育廿音



此門方部用採願

第五大色左区

東京府費屋卒

早野又四郎

此之若以状左表法有一色也其部辭職新中
 之此以共富付之市人多之其文部省辭職新編
 此事其字之息其外之字出止其採用其半及此
 名其新其也

主申

三月廿四

東板

奉省少

申立之

文部

省印

壬申七月二日

東京大學

別紙に印甘を所物に言ハリス仕出く東校
 方傷用ひふ紙入横濱運上并ニ番着た名にウ集
 地居留揚遠へーヤイ、輸送た舟に急運流
 多し候以石斗多し故に低ヤと在也

壬申

七月十二日

乐
俊

不省

三

東京大学

文部

省印

本方所寄之紙
於生後少年下

（Faint vertical text in the background of the right page, mostly illegible due to fading and bleed-through.)

醫院後補願因

文部省士族出身

室町温奥

要方後

在富弘代ノ醫局後

名東縣

士族

内舎生

鈴木瑞策

名室町温奥代ノ要方後弘代ノ室町温奥

於之通中甘下此其同也

主申

七月廿四日

東 後

東京大学

本省

伺之通

主申七月廿四日

省	文
印	部

昇進伺

文部省外一学出仕

杉山信之

右幸未十二月廿四日命藥局院中自置及雪
結勵其勤在自十五号出仕昇進也
此下其因法也

主申

七月廿二日

東校

本省

馬中

伺之通

南七月廿四

文部

省印

藥局手付増負伺

飾磨縣士族

内舎生

池谷 伴

岐阜縣士族

丸山守一郎

全

從來入院病者百人より處更に註議より五十人
を招し合ひて百十人より定む外來乞診
者も院より増え候へば定む割合を以て藥生兩
人由指し合ふ事多し其極より多し百藥局手付に
所費毎月の手當として金七圓より八圓來り
評定するに依り候也

二五申

七月廿一日

東京大学

本省

あや

伺之通

帝 七月廿四日

省 印

文 部

新規外負生入学之系

願

外負生入学之系 春二月秋九月二十人宛に宛定
就くも学科別限学内市立各中校に依りて
行交あり也

主申

八月廿日

道大学

附属学校

本省

あや

東京大学

伺之通

文部

省印

八月廿日

三申

諸君共勉之

本科預科生徒學費給與願

今般出外に在る中其當校本科預科の生徒及び現今
并既に之を科詳細列紙を添付通す其に心願
科生徒以上等中學者及び之に位を本科生徒に
滿學年八級に當りたる者學費給與願出され
許すお申すに急に評交を願也

主申

八月十番

第一大学区

属学校

本省

主申

東京大學

伺之通

文部

省印

Handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading.

本科生徒學科

記載解剖學

化學

動物學

生理學

窮理學

羅甸學

卒業 大試業

無機化學 硫磺論

無血虫論

呼吸論 神全學

氣學 論

動詞芽四変化

預科生徒學科

文法

卒業

大試問濟

讀法

ヘステ

讀本

作文

動詞接讀詞用法

羅甸學

動

共願

算術

分

幾何學

尋端

三三
角角
法法

同側

三角法

光
錦

五 變法

地理學

總

論

博物志

嘯
字

動物論

大助教佐々木東洋
大助教宮下慎堂

九等虫相良賴德

右變則生位教導課長申付候如講義精細
教導着實盡力不一万候二付大助教三日并進不
仰付度候

以助教裡村清德

右去二月少助教拜命外負出教授以兼通辨相
勤系在候外勉勵不一方候有申助教以昇進被
仰付度候

少録山根 昌

右去二月少録拜命記録受付お勤系在候交
盡力不一方候有權中録以昇進被仰付度候

權少録本 多利實

右去九月末九月權少録拜命医洗染局番被
取扱相勤系在候有盡力不一方候有十二等出仕
以昇進被仰付度候

十四等出仕佐々不景負

右去九月末九月少等出仕拜命以来營繕所物
お勤系在候以建築之技に長とる方不一方候且

上野營繕に取扱いては日人之外取調申付候者
別に之を以て十二等出仕以昇進被仰付度候
壬申

八月廿四日

醫學学校

本省

未中

石及法沙法事

東京大學

文部

省印

人撰同

茅屋色七十七

系府費所率

元後

中村忠義

日 日

7

校山文三

名而人上野法等外二号出仕

号外二号出仕

大池義成

名西尾篤成より古生舎持より二等小果進

身之志は十七

系系府世所卒

元獲藩

秋山信直

名古池美成代より門下御筆外二等出仕

名三系より急少評文に於片也

壬申

八月廿七日

第一大家系

留学校

本省中

人撰詩詞

月々金七兩より手当沙候

醫局出仕

石川縣去族

内舎生

梶井 恒

名内田抱一源十丑等出仕

江戸度候事

新治縣士族

内舎生

岡田貞三

名梶井恒成より月々金七兩より江戸醫局出仕

江戸度候事

名安永石願片也

壬申

八月廿日

東京大学
留学校

本省

不_レ及_レ仰_レ沙_レ江_レ少_レ事

文部

省印

東校學制之義府同

第_一條

從來本真醫學ヲ修ムル生徒中人其内縣費
ニアラサル者ハ自費給_レ之兼當春ヨリ市救助ヲ
願_レル者モ有_レ之然ルニ今般縣費之學資以廢止セ
ル在_レク多クハ自費給_レ之兼退校ヲ願_レル者可有_レ之
左_レテハ是迄ハ在_レ活_レ方_レ之凡事業モ盡_レク水泡_レハ
成_レ可_レ申_レ其歎息_レニ至_レ凡_レ迄_レ生徒ノ内情亦校
ニ於_レテ配_レ自費給_レ兼片者其ハ今般ニ限_レリ盡_レシ
學制ヲ其_二章_一ニ條_二賴_レリ學資_一以給_レ貸_レ之處
置_二取_レ計_一度_二事_一

第_二條

東京大学

預科生徒ニ及ハ教官見込有之者共ニ編テ
才一條之例ニ照準シ設置致度ヲ事

第一條才二條本科及預
科生徒既ニ預今ノ學
科詳細取調更ニコソ
出ル事

文部
省印

第三條

今般新入ノ生徒入舎差計之義ヲ退ノ間及ヒ從
前ノ規則ト心得既ニ出立シ者共モ不ク然ルコ

今般新入ノ生徒入舎差計之義ヲ退ノ間及ヒ從
前ノ規則ト心得既ニ出立シ者共モ不ク然ルコ
東校ニ於テ四情取ル且學制ハ趣意ニ照テ説
諭上ニ可然者ヲ暫ク姑息ニ許ス共受業科
或田ヲ出收又是ヲモ收ルル能カル者ハ假ニ證
人ニ證書ヲ以テ先入舎ヲ許シ其後里正里
長申遺ハ原手續イタニ從前ノ月俸ニテ
補テ未寬待ノ設置致度ヲ事

但ニ寬待之設置ハ時勢ニ得己ニ依
テ得ル未兩年春秋兩度迄ノ入
舎ニ限ル事

第三條

伺之通

但二回ヲモ救ル不能
力の乏情實取調
更ニ伺出奉

文 部	省 印
--------	--------

第四條

従来東校ニテ外負生ト稱ル者ハ即學制中
之受訓生ニシテ中學校修業生ニ當リ可申付
實ハ大學專門修業生此ニ入リ生徒モ縣費
ヲ以テ修業スル者少シ此度縣費止ルテハ一
時方々ヲ求メ進學ニ道ヲ阻可申及海ノ負

困ナレ氏生業之同達者ハ在案ハ往自之ハ救助
生ニ勵ミ東校定額并ニ其餉料ヲ以テ此ヲ暫
ク給貸シ教場醫院ニ欠負アルハ其負ニ充
テ又成業ニ上ル各縣之任ニ盡カシテ其給
貸ヲ償ハシムル事

第四條

要則生徒アルニ負之
額ニ補充消——以テ
伺之通

但一餉ノ生徒多ク
困ルル公費貸与

文 部	省 印
--------	--------

之類に種耳を
りしり

東京大学

第五系

従来通學生は概して毎月二回入
門ヲ許し之を友に満義治療ヲ傍聴セ
しメレナリ世義亦姑息ニ涉リ片探れ見及
共教育ノ一端に在リて以て通に致度生
事

第五系

同之通

支 部

省 印

名之條々ハ概畧ニテ猶詳細取調ニ事トテ
得共陳之ハ條々許シテ以テ之ハ其後學制
種あるに否ハ此に主として論議多ク之を何
也

壬申

八月

本校

本省

三年

東京大学

（Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading. Some characters like "本" and "日" are visible.)

改省日延延願

一、改省の事、去る八月廿日より、九月十日まで
帰省の事、改省の事、今、全、休、止、仕、儀、
本月廿九日と有、教十九日、日、延、止、改、省、仕、儀、
此、事、也、
主、申、

九月十日

十四日、出、仕、

室町、温、具、

文部省

（Faint vertical text, possibly a signature or date.)

東京大学

東京大学

願之通

文部

省印

九月十日

（Faint handwritten text in the right column, mostly illegible due to fading and bleed-through.)

壹則醫學生徒學費願

外負生を稱し従来入舎は留學と稱する
生徒は壹則之法と稱するは惟る留學と
稱するに多き本生は徒に異なりといふ
學問は亦長し其本生は少くは留學費を
止し留學生は自費給し給く中給く
て留學生者よりいふは亦留學と稱する
は其の專ら本生は徒と稱するは惟る
留學に入つては治効と此は壹則生徒に
は是れ本生は徒に今より六七十年は徒
大成するに壹則生徒は現今は治効に
満つるに亦多し留學に於ては欠負あり

東京大学

東京大学

ハ世に安んずるに取らざるを以て如く若
縣出く留後創立之計案ありて悉く留
負と我々多量に需む之に應ずるも
亦世に安んずるに取らざるを以て今從
ち之に自費給ふに難き事あり退會とゆふ
ハ此にて進學を妨けしむる縣に需むる
する留負はけきハ同化とも妨け留後
後ハ世に安んずるに取らざるを以て
若大の之と人々を擧げしと學制方其
ハ給貸方之如くハ市救助の事ハ於
所評議又とあり也

壬申

八月廿九日

第一大学区

醫學學校

本省

中

変則教授の廢止生徒

取纏之儀同

當今変則生徒の内外合して百三拾餘名程に
改め規模を擬して方法ヲ施設し教育
に在りて中ニ學業敏捷ナルモノ解ナラス
全然駢進仕候モノ惜ノ至者今般大試問
ヲ行ハ石三拾餘名中より前途ノ目的アル
者若干名ヲ拔擢し本年中より更ニ之ヲ各
ヲ精進シ情實方圓ニシテ學業勉給者モ
以テ其ヲ給賞シ或業ノ上ニ學制ヲ修ムルニ
準シ或ハ府縣ニ分派シテ裁判ニ任スルヲ
或ハ命シテ海陸軍醫トナシ其他ハ一助ノ

東京大学

費用自ラ之ヲ給ヒ期限満来リ廢止セシメ
教授ノ方法ニ至リテハ本真醫學生ノ志
列ノ教師ノ講義ニ陪ニ教官ノ復講ヲ聴カ
シテ附屬醫學生ノ名多下ニ以テ往來ニ便
則姑息ノ弊并風ヲ一洗此方此法至急少評
決リ能決也

壬申九月廿日

第一大学区

醫學学校

文部省

中

其校変則生徒教授リ多ク廢止ニ就テモ
右生徒ノ内我名ヲ精撰シ本真生徒ニ
列ニ教師講義ニ陪ニ付テ醫學生ノ名
ヲ下ニ列シ何通タルベシ
學制才章ニ章ニ準シ學費貸與ニ便ニ經
相成テ事

主申

九月廿日

文部

省印

東
方
大
學

シモンズ 僱 強 鞭

過自心陳約、方知在預科之所來着烟浪令
之云々束地少波片有古之師來云述之受
之七七不義之聲從陳約取張沙片江兵初月
和室之帝位之曰人言張少使之自來合十
月廿昔々向之今月石山雁渡お来片猿沙後
お来片也

壬申九月廿八日

牙一大学区

醫學

本省

83

東京大学

伺之通

文部

省印

十月八日

（Faint handwritten text in the background of the right page, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some characters like '省' and '印' are visible.)

生徒受業科之系府同

當校生徒年永々入校其生徒之内之元來貢
府之者多々目今主々金之入金之入金之入
者少ナカラ入就ラハ而後月々受業科之議以
學制通中モお運氣候状悲苦心在在在在在
中學之於ラモ目今止り得ス状悲之悲之所
以學府之制ハ以年當校生之議を引紙
掲示し通以學府之成分此限至急以拜使
主願也

壬申十月十日

才大子已

留學校

東京大学

本省

馬車

近頃明治省大試問ヲ決ニ十八日ヲ課
業ヲ始ルル所ナリ中ノ少沙汰ヲ申分ルル
也

（Faint handwritten text in the right margin of the right page, mostly illegible due to fading.)

書面之趣無余ヲ誤ニ中學之比較
ヲ以本科生受業料ハ一月二回以上像
科生受業料ハ一月一回以上相納サセ可申
事

但第一番中學生從極貧之者ト至一月
一回以下之受業料ハ無之誤ニ改正相成
候事

主事

十月十八日

文部	省印
----	----

一學制第九十四章之有之通醫學受業料之儀
その月七日より減と相當とと外に云日四日之
二等と設く右相當七日より減之受業料を
納付せしむるものなり長里の等と設くを
添へて納付するものなり其内其内困窮なる
は月四日以上の受業料と納付せしむる者も
其生を減くし外に月七日以上七倍を減止
可るは許し長里の等と設くを添へ可る
なり

四、此方遠隔之者ハ故に自分ハ其
のころを出し、至十日以内車に乗りあ
るを出さる

一學制才九十四章之有之通條諸學受業
 科之儀も下月五日平減と相當とくの外に
 三回平減二回之二等と設く石和常五日五
 十減に受業科と細分能きものなるを
 長里の等し陰香を係しつれ出るより得
 え其内移別田家第も下月二回以上を受
 業科と細分能きものをも貸養生を除く
 の外下月或月より平減止一の事科を案
 戸長里ふに改訂と添く可致出と事
 以て地方遠隔の者には自分か改訂
 するを由し至十日以内更に改訂可
 出と事
 五甲十月

第一大学
 醫學校

東京大学

第一大学
醫學校

大坂府學校より、若城等と校下り海を
申す者清和人を名大坂より出張し、分
京人撰と云ふ申出り也

壬申

十月廿九日

文部省

生徒受業科之儀
再伺

生徒受業科之儀は前日伺ふるに
願科 生徒受業科之儀は一月一回以上
科 生徒受業科之儀は一月一回以上
万が一願科之儀は一月一回以上
生徒受業科之儀は一月一回以上
科 生徒受業科之儀は一月一回以上
科 生徒受業科之儀は一月一回以上
科 生徒受業科之儀は一月一回以上
科 生徒受業科之儀は一月一回以上

東京大學

第一大學已

醫
學
校

本荀

中

中學ニ義ハ學制第九十章、九十七章ニ
 趣意ヲ込メ今モ因リテ決定ハ身ニ至リテ
 中學既ニ因リテニ此中ハトモ學ニ於テモ二因
 リトモ當ニ因リテ定則ニ義取リトモ此中ハ
 趣ナルモノニテ定則ニ義取リトモ此中ハ
 物ニ生シテ學生ニ因リテニ此中ハ
 因リテモ此中ハ因リテモ此中ハ

土

十月廿九日

文部

省印

91

壬申十月四日

才下学道

医学学校

不省

半

洞之通

壬申

十月四日

文部

省印

医学学生徒交業料金

醫學學生徒交業料之係自明治五年
何出金片等係實之審之而文何出片係
以所治片等片等片等陳述此片柳常後
學生徒之係永きいに今年向之入學
既之供給之費一盡一其安之加之從
未之醫學之於之免角人々之業之能
凡凡習之極之貧困之者何之之之
學之志之者學之次等在同等學制中
而及之下等之交業料お細五片之
以以式同以上之交業料之於之
中交業料之

文 省

部

伺之通

印

市十月晋

池者多分るる月并諸月なる料約なり
右あり者そそ月を月平候心と方々池が標
つたふ此ありと急所許決多に成る也
壬申十月四日

本省

市中

醫學第八級

大坂府菅岡平氏

同

玄卿

申二十一

筑摩縣士族

湊田哲造

申二十四

三重縣士族

橋

良詮

申二十二

秋田縣士族

中村良益

置賜縣士族 申二十文

二 渚謙造

置賜縣士族

高橋淳造

申二十一文

濱松縣管内平民

山崎泰輔

申二十五文

木更津縣士族

菅野道順

申二十文

木更津縣士族

柿下貞橋

申二十二文

石川縣管内平民

今村去三

申二十二文

岐阜縣士族

原要司

申二十文

新潟縣管内平民

山崎玄修

申二十文

静岡縣士族

靜岡縣士族

東
松澤玄貞

申二十ニ

足羽縣管内平民

吉田貞準

申二十ニ

山口縣士口

野口安次

申二十ニ

美々津縣卒

大和多七郎

申二十ニ

敷賀縣管内平民

渡邊勝次郎

申二十ニ

山口縣士族

小野梁吉

申二十ニ

郡馬縣管内平民

櫻井郁次郎

申二十ニ

和歌山縣士族

印東玄得

申二十ニ

足羽縣管内平民

宇野朗

申二十ニ

東京大學

額田縣士族

二 陣省軒

申二十ニヤ

印旛縣士族

濱野 昇

申十九ニヤ

新治縣管内平民

大川 宗炳

申二十ニヤ

愛知縣士族

大河内 和

申二十ニヤ

三瀨縣士族

浅川 岩瀬

申二十ニヤ

北條縣士族

汗野 貫道

申二十五ニヤ

柏崎縣管内平民

山田 小弥太

申二十ニヤ

豊岡縣士族

小林 弘造

申二十ニヤ

長野縣士族

室賀 六郎

東大
學

筑摩縣士族

申二十二

失邊通俊

申二十一

飾磨縣士族

赤鹿東作

申二十二

印旛縣士族

原田 基豊

申二十二

柏崎縣士族

石川 仲佳

申二十四

名東縣士族

富永 恒

申二十一

三階縣士族

綿貫 晋哉

申二十四

右三十六名學業勉強也敏行正既三醫學等
八級迄進步將來成業之目的有之及處多困
シテ學費及衣食費用自辦難相叶候旨即
今ヨリ向四年間學費津貸渡移下度方當
人願出候旨則從前學科卒業之迄及
現今教科之研業明細書并貸費願書相

東京大學

添差出申候此段御詮議相步度候也

預科第一等

東京府士族

佐々木政吉

申十八才

青森縣士族

佐々木文蔚

申二十一才

山形縣士族

大寺治雄

申十九才

白川縣士族

河野 衢

申十七才

濱松縣管内平民

石山國嘉

申十八才

印旛縣士族

井上虎三

申十六才

静岡縣管内平民

清野 勇

申二十一才

小田縣士族

清水都太郎

東京大学

青木縣士族 申十六文

田澤敬典 申三十一文

香川縣管内平民 神田由己 申十九文

秋田縣士族 鳥瀧恒吉 申十八文

山口縣士族

熊谷省三 申十九文

足羽縣士族

魚住以作 申二十七文

山口縣士族

熊谷玄旦 申十九文

木更津縣士族

菅之芳 申十九文

栃木縣士族

小林廣 申二十文

福島縣管内平民

杉内康之助

申十九才

長崎縣士族

浅山義六

申二十才

東京府士族

佐藤一之助

申十七才

神山縣士族

大井上琢磨

申十五才

額田縣士族

伊藤祐命

申十七才

小田縣士族

北山錦次郎

申二十才

新潟縣管内平民

石里宇宙次

申二十一才

筑摩縣士族

中村勝也

申十八才

柏崎縣管内平民

外山林助

申十七才

白川縣士族

濱田玄達

申十九才

小田縣士族

豐田準平

申十六才

印旛縣士族

神保文輔

申十九才

豆祇縣士族

坂本常長

申十九才

高知縣士族

野並魯吉

申十八才

柏崎縣士族

坪上清茂

申十六才

島根縣士族

梅錦之丞

申十五才

高知縣士族

弘田長

申十五才

飾磨縣士族

堤公一

東大

申十八

群馬縣管内平民

高橋俊太郎

申十八

三重縣士族

橋 玄昌

申十九

新治縣士族

勅使河原杏齋

申二十一

栃木縣士族

長尾俊貞

申十七

足羽縣士族

上田完治

申二十一

預科茅二等上

群馬縣管内平民

郡馬鉦太郎

申二十一

香川縣士族

太田 徳翔

申二十一

岐阜縣管内平民

野川次郎

東京大学

美々津縣卒

申十九

林田少二郎

申二十二

木更津縣士族

賀古鶴所

申十七

水澤縣士族

佐藤俊良

申二十二

飾磨縣卒

中島一平

申二十一

長野縣管内平民

中島篤

申十八

三重縣管内平民

岡山輶軒

申十七

静岡縣士族

佐野龍太郎

申十七

東京府管内平民

二宮忠固

申二十一

右五十名學業勉強又敏行正既當校預

科第二級上ノ部以上ニ進歩將來成業之目的
有之候處多因ニシテ學費及衣食費因自辦
難相叶候存即今ヨリ而六ヶ年間學費津貸
渡社ノ度々當人願出候存則從前學子科卒
業モ少及現今教科ノ研業明細書并貸
費總書相違差出申候此段所詮議相成度
候也

教師

シモンス

ワグ子ん

ホフマ

ニユル

學長心得

長谷川 泰

學長

相良 知安

第一大學區

醫學部

市青七日

本省

市中

醫學部第八級生徒三年卒業願て通貸費
差許候尤預科生徒ハ中学生徒ニ比例シテ
貸費可差許候条假令其校預科ノ
何級ハ中学何級ニ比較シテ今一層
詳細取調可同出候事

壬申十月十日

文部

省印

其校生徒依預當十月より學費貸付
条規則ニ通シテ其校依經テ出スル也
但如科生徒預科生共々其校ニ依テ出スル也
依條中ニ其校依テ出スル也
ニ付付テ事

壬申十月十日

文部省

第一大学系

醫學部

東京大学
総合図書館

（Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading. Some characters like '一' and '二' are visible.)

常夜預科第二級生徒とあり中學生生徒に別
仕度あり中學生第一級以下とあり常科一
等科別冊あり通夜預科第二級生徒中學生以下
貸与成り時限至るは論議あり別冊也

主申

十月丁酉日

才一大学

醫學校

玉首

法中

東京大学

本館

二月一日

東京大学

解題書出板之系并願
當冬半期教科之編解題技術至當之學係
生生徒教導之方又一部之此等以之
解題書式之百部 活字ニ至急出板 必以
少件之りま 乾也

解題書出板之系并願

當冬半期教科之編解題技術至當之學係
生生徒教導之方又一部之此等以之
解題書式之百部 活字ニ至急出板 必以
少件之りま 乾也

壬午正月廿四

東京大学

醫學部

本館

東京



